新　刊

□梅沢　俊：［新版］北海道の高山植物. 367 pp. 2009. ￥2,500＋税. 北海道新聞社. ISBN: 978-4-89453-505-3.

本書の最も際立った特徴は，日本全体の高山植物を扱った図鑑では省略されることの多いもの，あるいは情報不足で掲載を見送られるものをここでは実際に画像として見ることができる点にある．例えば，普通1枚の写真で済まされてしまうエゾキスミレもアポイ岳の他，日高山脈，芦別岳など6枚の写真を用いて変異が紹介されている．写真と解説の双方を自ら担うということが逆にフットワークの俊敏さをもたらすのか，最新の情報も随所に盛り込まれている．「あとがき」には，アップ写真を多用して近縁種との見分け方を示したこと，生育状況が分かる写真を盛り込むことの二点に特に力を入れたとある．とくに後者は本書のもう一つの特徴で，生育状況が風情があってしかも艶やかな，氏独特の写真で表現されている．

著者の梅沢 俊氏は札幌在住のプロカメラマンで，頑なに北海道のフロラに拘りつつ，これまでに多数の図鑑を世に出してきた．そうした著者の仕事の延長線上で出版された本書は，北海道の高山植物図鑑の決定版といって良いと思う．40年以上の永きに渡って山登りを継続されてきた，著者の岳人としての資質が本書に遺憾なく発揮されているといえよう．本書は同氏ならではの著作だが，ところどころに「予告編」がちりばめられているところを見ると，「現段階での」決定版というべきなのかもしれない．本書がこれまでの同氏の図鑑と異なっているのは，花色による配列を改め，新エングラー方式の配列（分類順の配列）を採用したことだろう．やはり，この配列を採ったことにより，格段に使い易くなったと思う．巻末には和名の索引はあるが，学名の索引がない．アマチュアの植物研究家にとって学名の使用頻度は高くないというのが著者の考えと聞くが，やはり学名の索引がないとかなり不便である．タイトルからは地域フロラを扱った図鑑の一つのように見えるが，本書は既にそのようなレベルを越えている．内容の濃さと印刷の美しさの故に，我国から出版される各種図鑑類は海外でも注目されている．内外の研究者レベルの要望に応えるためにも，学名の索引は是非とも欲しいところだ．

巻末には佐藤　謙氏（北海学園大学教授）の「生育地とともに高山植物を知る」の一文があり，北海道の高山植物の「生活の場」を知ることができる．佐藤氏は『北海道高山植生誌』（本誌82巻5号320ページ参照）の著者でもある．佐藤氏はこの一文の中で，「北海道の高山は日本の中でも多様な生育地と多様な植物をみることができるところである」と述べられているが，全く同感である．雪田植物の豊富な大雪山や知床連山，超塩基性岩地の植物が顕著な日高山脈や夕張山地など，豊かなフロラに恵まれた山々が北海道にあって幸せに思う．　（門田裕一）

□小林良生：海からの紙　222 pp. B5版. 1993. ¥2,000. ユニ出版株式会社. ISBN: 4-946450-11-4 C1045.

東京・飛鳥山にある紙の博物館へ行ったらアンケートを求められたので，書いて出したらこの本をくれた．アンケートの景品にしては高価だが，理由（推定）は末尾に記す． 著者は応用化学出身で，工業技術員勤務．陸上植物に含まれる多糖類のセルロースから作る紙に対して，海藻に含まれる多糖類から作る紙について，いろいろな研究成果を紹介している．なんでそういうことにこだわるのかというと，陸上植物からの製紙が環境問題を引き起こしていること，海藻は生育周期が短くて量を得やすいこと，沿岸汚染の対策になり得ること，セルロース紙では得られない種々の機能をもつ紙（機能紙）を作ることができる可能性があることなどだという．ただ，セルロースはもともと繊維として存在しているのに対して，海藻の多糖類は繊維の形をとらない粘質多糖類なので，まず繊維にしてから紙にする